日刊
磐城日日
發行所
株式會社磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話219番
振替口座仙台31355番
編集人 高瀨讃
發行人 印刷人 長瀨芳郎

時局と縣政報告（一）

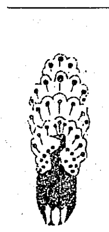
國民民主黨福島縣支部幹事長
縣會議員　大井川正巳

縣民の皆様緊迫せる時局の重大性に鑑み、八月縣会をかえりみて當面せる縣政諸般の問題の御報告を申上げ縣民各位の御支援と御協力を御願い致し度いと存じます

大井川縣議

一　終戰正に滿五ケ年有余、八千萬國民は幾多苦難の道を辿つて來ましたが、時局は內外共に多事多難を予想され政治、經濟、文化等極めて重大な樣相に直面していると思われます二ケ月前に起つた朝鮮動亂も世界注視のもと三十八度線を契機として同國人互いにしのぎをけづる單なる戰爭にあらず、世界の人類に何を暗示したか？所謂民主々義國家と共産主義國家の對立による二つのつめたい流れが、四つの島國である日本を亞細亞の防波堤たらしめんとしているので換言すると吾々の足元に火がついたと同然ですから、此の戰爭を對岸の火災の如く輕視することは出來ないのであります。其の波及するところ、中共政府の台灣攻勢が傳えられ、遠く佛印に、亞歐諸國に至るまで、復雜せる世界情勢は緊迫の度を加え世界第三次戰爭へ移行するが如き懸念を抱かしめています。本年一月十二日より數次にわたり米國トルーマン大統領及びアチソン國務長官は自國の議會を通じて全世界の國民に極東對日防共政策の方針を声明しました。

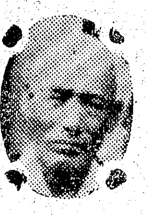
即ち對日防共政策の強化こそは米本國の安定と極東に於ける日本安全の保障の確立のため世界平和に貢献する所似を明かにして、米國は國防費の莫大豫算を計上し國連を動員して世界平和を目標に事態の解決に努力を拂つて居るのであります目下米、英、佛三國外相會議の重点も對日講和の豫備交渉であり今回トルーマン大統領が二週間後にはソ聯を含む極東委員會の開催を期して日本の発言も許すといつていますが對日講和の促進と五十三ケ國の一員として共の獨立を援助している米國の好意に對し私は縣民と共に深甚なる感激の意を表したいと思います。



町議列傳

たかせ・かすみ

小名浜町會議員
港灣委員長
立花秀吉氏
名論卓說の雄辯家


立花秀吉氏

近頃は、お金の相談や追立を喰つているので家を探して吳れとか、家を建てたいから土地を斡旋して貰いたいなどと持ち込まれて席のあたたまる暇もないという立花さんは、筆者に對して、いよいよ、經濟は、ひつぱく、しましたね、色々困つた人達に接すると、涙なくしては見られませんよと世相を嘆じ冒頭から人情話にホロリとさせて貴下の抱負を拜聽したいという筆者の鋭鋒？を巧みにそらしてしまう

筆者が訪問した時には既にお客と何事か相談中であつたが、物の五分も、たたない間に過日依賴した事はどんな具合でせう、とかロー（利）プは何んとかなりませんか、などと來客が一、三人押し寄せて來る、正によろず相談引受所といつた感じがする、かつて、議會雜感に立花さんを、町會議員中ピカ一という感じがしたと評した記事を捉えて、某氏が（特に名を秘す）立花さんに向い筆者と何か緣故でもあるのかと、いわれたので赤の他人だが自分は町政の第一人者だという自信をもつているから差支はなかろう、おまけに頭の禿具合から云つても、斷然光つているからピカ一に間違いはないと、ズバリ肯定するところ正に强心臟の持主であり自他共に許す町會のオーソリティ（權威者）だ、今日の町政は、常任委員會で原案を審議して本會議に上程するような段階になつているので、町議たるものはボンヤリしたり、家事に忙殺されて勉强を怠つていたら、役目が果たされないと、町議の心構えにつきハッキリした態度を示された、或る人（特に名を秘す）が立花は職業議員だと稱したり、無職の者は町長になれないと極言してその理由に職業議員や無職者は惡るいことをするからだといつたが地方制度が改革され、民主主義が强調されている今日の町政では惡るい事が出來ない仕組みになつている、無職といつても金がなければ生きて行けないので恒産はある、昔から恒産のない者は恒心なしと云うから、恒產をもち家事や職業に心を労せず町政に沒頭することのできるものが、四五人ぐらい町會議員の中にあつてもよくはないか、昔は町議を道樂でやつた人もあつたが今日の町議は生やさしい、つとめではない、重大な義務と責任を果たすためにも多忙なものは容易でないので恒產と時間的な余裕を持つたものの存在が必要である、と自說を主張し人生五十年を迎えた今日と雖も暇さえあれば勉强を續けていると座右の書籍を示されたが、町政に關する熱意と旺盛な研究心には、敬意を表せざるを得ない

立花さんは大物だから馳け出しの記者より、あなたが適任だと社員におだてられて忙中閑をぬすみ伺つてみたが立花さんの町政に關する構想は極めてスケールが大きく、しかも、その對策は町民の生活に膚接した緊急にして具体的なものだ、そして立て板に水を流すような雄辯を聞くと、なるほど速記しなくてもポイント（要点）は逃さぬ明析な頭腦と精密な記憶力を有する？筆者ならずんば、という、うぬぼれもでて來るし矢張り、立花さんは手剛いぞという壓迫感もうける。町政に關する抱負は數限りなくあるが、まづ焦眉の急は、河川の改修と港灣の修築だ、小名浜は重要港灣だからこれを十分に活用し、その背後に工場を誘致すると共に礦泉、娛樂機關、浴場等の施設を完備して海上生活者のオアシスにすることだ、これと併行して、廻船の吸收を圖らねば、ならないが、時化の來るたびに漁船が破損している現狀だから速かに中型や大型船の船だまりを改良し三岬に船曳場を設置することが先決問題である

次に江名町に對し五〇〇噸の給水を要求しているが、これは行政地區の移管にまで発展させたい、中型及大型船の船だまり、船曳場は江名町と共同で設置するよう中田江名町長と協議を進行しているがなお江名と小名濱とは唇齒輔車の關係にあり共通的な問題も多いので兩町の合併を希望しそのためには大乘的な見地から小名濱という名稱を解消してもよいと思つている、と斷言された

更に農村振興策として排水工事と美田化によつて增產を促進し、農家經濟を復興せねばならないが百四、五十町歩に及ぶ富岡と大原の間の不毛作地を肥沃化することも、失業問題を解決する方策であると强調された

泉とのつながりは獨自の立場から自費で作らねばならない、芳川地區の二十萬坪の土地を工場地帶とし、泉部落に住宅を建設するプランについても吉田村長と話し合つている、豊間と泉の間の道路の舖裝は產業發展の基本であるので、江名にも呼びかけ、縣會に反映させる必要がある、それから年次計畫でもよいから恒久的な失業救濟の對策を樹立することで四十万圓ぐらいの経費では問題にならないいづれにせよ、一カ年二十萬噸以上の荷揚をしなければ重要港のフルイにおとされて、地方港に轉落し國家から助成もされなくなるので、飽迄港灣修築には全力を傾注せねばならないと、流石は港灣委員長だけあつて、熱の入れ方も格別なものがある

國稅を合して五千萬圓の滯納があるが、その大部分は漁業家が不漁のために困窮して担稅能力がないためであるこの漁界不振を打開しなければ小名浜の発展は期待されないという立花さんの意見は正しく港灣委員長の手腕に待つところも重大であろう

毎月一回、　青年を自宅に集めて

一、青少年の思想的惡化並に防犯對策は如何なる方途によるべきや

二、進展途上にある小名浜の建設は如何なる對策に待つべきや

三、一般大衆は現今の學校教育の動向に對し教師觀及び兒童觀を如何なる觀点より評價すべきや

などの課題を與えて青年議會を開き、熱心に討論させているということも承わつた、ある人はこれを指して立花の政治工作だと非難しているが、青少年の補導を預かつている、自分としては、青年の思想を善導したり知識を向上させるのは當然の使命だと思うと共に、若い人々から新しい思想を吸收し時代の流れを把握することも必要だと考えている元來多くの人々に接觸することは、知見を廣めるために必要だし、例え、自分に反對する人でも膝つき合つて話せば、お互いの理解を强めることにもなるので自分は他人の意見を尊重するという、ところなど民主主義政治の實踐者といわねばならない

自分に對し古い人間だから引退せよというものもあつたが、人間が古いとか、新しいとかいうのは年令の多少できまるわけではないと抽象的な愚論を蹴飛し形式主義者に挑戰して敢然と自己の所信に邁進するところは『靜かなること林の如く疾きこと風の如し』といつた武田信玄の戰法をほうふつさせるものがある、立花さんは、一くせも二くせもある人だということも聞いているが、古來禿頭に惡人なしといわれている、定九郎も、石川五右衛門も自來也も千日かつらで人相をわるくしていることを思うと、頭部の毛細管が機能を停止しているのは立花さんが善人であることを證明するシンボルかもしれない、最後に立花が大風呂敷をひろげたといわれるので大ゲサに書かないで吳れと注文されたが何事も默秘せず、何事も附加せざることを誓うという裁判所の宣誓の如く、これは、卒直な會見記であり、むしろ名論卓說を省略したところが、かなりあることを附記して置きたい

佛教講座

彼岸會②

鳩の巣　如鳩

此の聖にして美くしき橋を渡らうとする我れら衆生は先づ自分を反省し佛の道に精進し、食事其の他肉慾の思念を殺して、法器の食を食べなければならぬ、関東地方で昔から傳えられている小供達の遊び歌に

仲日ぼたもち
パトラでこねる
こねて丸めて
のんの樣へ上げる

パトラとは釋尊以來比丘の持つ法器で、最も重要なものの一つである

即ち一人分の食糧の入れられる器である、また、ぼた餅は菩提餅というのが、いつの間にか、つまつてしまつた禪宗などでは、ぼだいだるまに似て居る所からとりわけ珍重して來たものである

ことによると般若湯と一所に考案されたものかも知れない

何れにせよ佛事が無ければ菩提餅を食べる事が出來ないようになつている昔の人は佛事にかけて、実にその習慣を固く守つて居たこんな譯で、佛と菩提餅とは切つても切れない緣となり、大人子供に至るまで大望せられて來たのである

ぼたもちが
食べたい時の
寺參り

こうなるとお彼岸を到彼岸と云うよりは到ぼだい餅と云つた方が早道のようだが實のところ到彼岸も到菩提も譯は一つである

なぜならば菩提（ぼだい）とは道、または覺といつて、佛の正覺の智慧のことであるからである

ぼた餅を
食べて佛を
悟りけり

僧、俗、ともに佛道に悟入する所、實に菩提餅の緣深きを感ずる

さて此の菩提餅の成り立ちを調査すると外はアンで內はモチ米である、すなわち、アンは佛の甘い慈悲であり、モチ米は幾多の衆生がよくこねられ結び合つて一つの團子となつて居るさまを意味して居る

ぼたモチにはアンとモチの理も含まれ、然かもそれが、こねて丸められて佛前に供えられると云うところに妙境がある文化運動も、あまりむづかしい事ばかり云わず、最も近い所からこね上げて、とに角に丸めるのが肝心だと思う因に云うがクレキカソリックでも糖飯を造り上を丸めてその上に小さな美しい菓子で十字架を描いて神前に供え永眠者を記憶して居る

（續く）

募集
植字工
文撰工
若干名募集但經驗者
希望者は履歷書を本社まで御持參下さい
株式會社長瀨印刷所
小名浜町 電二一九

常備消防の設置近し

湯本町に明るい希望

湯本町は常磐炭礦を控え有数の町であり乍ら今だに常備消防のない爲二、三年前より關係者をして憂慮させ、しばしば話題にのぼつて居たが此の程具体的に問題化し、去る九月十一日より三日間、縣当局の紹介により消防團長町議消防委員、小井戸庄松氏、消防委員長庄司浜吉氏、副委員長山口保氏、委員吉田志賀、上川、渡辺、草刈の諸氏が栃木縣で模範的な小山町、足利市方面を視察して帰り同十九日午後一時より、全委員出席のもとにその報告と共に、今後の具体化について協議したが予算や人權費を町の経済力とをにらみ合せると仲々容易でなく遂に決論に到達せずあらためて懇談會を開催して委員會に圖ることになつた

小井戸消防團長談

湯本町の現在の消防は他の市町に比較して常備消防のない事は一朝火災の場合全く憂慮に堪えず、常に思い悩んで居た事であるが、いよいよ實現となると人件費や、町の經濟面とにらみ合せて考えると此れまた容易ではない、然かし今度こそは常備消防施設を實現したい、近い内に消防委員並に團員中より代表者二、三名參加して貰い懇談會を開催し、結果を見て後消防委員會に圖り最初は小規模なものでもよいから實現したい、湯本町が温泉町として且つ大炭礦を控え益々發展途上にある時、常備消防を實現する事は極めて適切有意義だと町當局並に對し町民より小井戸團長に多大の期待がよせられている

北淺橋の問題再燃

水戸管理局長の視察終る

湯本駅より八仙、淺貝に通ずる北淺橋は七、八年前にも持ち上りその儘閑息、二、三年前にも問題化し、當時常磐炭礦にて八仙淺貝の住民六千余名の爲に全額負擔と云うことになり實現の可能性があつたが町内では實現すれば非常に便利はよいが本町がさびれるからとの反對意見もあり遂にそのまゝになつていた此の幾多の波瀾を生んだ北淺橋は今日の八仙淺貝ばかりでなく今後の湯本町の發展の爲には補装道路と共に重要なる問題であると北淺橋の問題が再燃して去る九月十四日水戸管理局長が朝吾妻町議と共に視察した、町當局としては全額國庫負擔を切望し、水戸管理局長は全額町當局負擔を希望しているが大体費用は七百万円と見積られて居るたとえ七百萬圓が一千萬圓かゝつても町發展の爲ならば、國庫町當局、炭坑側と互に歩み寄つて一路實現に邁進すべきではなかろうかとの意向が强い

共同募金運動決定

各種團体と共同提携

二十一日午前九時より町長宗に於いて國民たすけあい共同募金運動につき區長代表、婦人會、青年會代表、学校宗教團の參集を得て目標割当十九萬八千八百圓の達成につき運動方法を協議し次の通り決定した

一、街頭募金

七万圓を目標に婦人會宗教團、中学、高等學校生徒の應援（土曜日曜に限）をうけ街頭に進出する

一、興行募金

婦人會、青年會の協同主催で名士の演藝會を開催する予定、目標は八萬、部落に於いて三万圓を見込んでる

一、職域募金

日本水素工業株式會社等に呼びかける予定

一、小錢回收募金

貨幣價値にあつても利用價値のない五十錢未滿の小額紙貨幣を町内各學校、學生、生徒に依賴して各戸より募金すること、小錢回收募金については町民一般に同覧板を以つて周知徹底せしむること

尚大口募金、戸別募金も行うことになつているが運動期間は來たる二十五日より三十日までである

小名濱町役場厚生課より

全國一斉に、來る二十五日より三十日まで共同募金運動を行ないます、皆樣のお宅の机の抽斗や小箱の中に死藏されて居る貨幣價値は有つても、使用價値の薄い五拾錢以下の小額通貨を一錢でも多く供出して此運動に協力して下さい、

青少年の教化

各方面で對策決定

青少年不良化防止對策について、果して實際面の善導についてどの樣な指導、どの樣な施設をしたらよいかと云う問題について去る八月二十五日縣本部防犯統計課長及び山岡巡査部長來町青少年不良化防止について協議し各代表のあらゆる、觀點から活発的な論戰が交はされ非常なる成果を收める事が出來たが此の對策協議會に引續き九月十八日午後二時より小名浜警察署會議室に於て、公安委員會、警察関係者、社會教育委員、PTA、各學校代表、役場当局関係者出席のもとに協議會が開かれ社會教育委員事業予算、公民館予算運營問額、青少年実際面の不良化防止對策、兒童福祉法によるところの保育事業、等について討議しあらゆる施設を活用して兒童や青少年の教化につとめることを決定し午後四時閉會した

拳銃交附式擧行

小名浜署で野外訓練

去る二十日小名濱警察署では水野町長、公安委員列席のもとに拳銃交附式を警察會議室に於いて擧行した尚二十一日は召集日のため拳銃着装して威容を整え鈴木署長指揮のもとに野外訓練を行つた

想

小名濱夜話 ⑤

…續・昔物語…

茨 玲之助

小名濱などはいい方でこれが純漁村となつたら、村の指導階級に屬する船主が、その立場上一應の勸告を試みても、事こうした方面では漁夫諸氏はいつかな受け附けないのである。大分長談議になつてしまつたが、「とりごや」に就ての故事來歴はいずれ稿を改めるとして、とに角正月様をお送りする神聖な祭壇である。最近は十二日頃だがもとはもつと早く作つたように思う。宰領はこども達であるが、自ら階級があつて一番小さいのが下級役員という事になる。それが、特志寄附募集に戸別訪問をするのである。

「まきくんちやえ、すみすごくんちやえ。」と大声叱呼しながら、十人位の子供たちが入つてくれば、どこの家でも、納屋や物置を開けざるを得なくなる。こうしてこのこども達は、十五日の朝「とりごや」を燃してしまうまで、小屋籠りをやるのである。「とりごや」の中に薪を焚き、餅などを焼いてたべながら—とりごやの火で焼いた餅をたべるとその年風邪をひかぬという—おそらく殆ど眠らずに夜を明かすのではないだろうか。

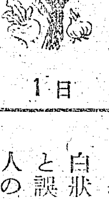
こんな話がある。十五日顔中眞黑に煤けたこどもが登校する。先生の方ではその顔を見ただけで、ははあと合点する。一時間目讀み方、本をひろげたとたんから何名かのこどもはいねむりをはじめる。とに角徹夜の努力だから大變だ。うとうとからこくりこくりとなり、遂には鼾聲雷の如き本格的桃源境に遊ぶようになる。教室中の爆笑などはてんで氣がつかない。理解の深い先生は、このいたましき殉教者に同情して、その笑を制止し、心ゆくまで眠らせるのである。休憩時間から授業時間と何回かこども達の出入りがくり返されてもいつかな目をさまさない。もはやお晝近く、頭は良しと先生は眠つているこどもを揺り起した。とたんはつと目覺めたこども、いきなり立ち上つて、讀み方の本を、音吐朗々ではなく、しおびきを食い過ぎたようなしわがれ声で、ごずごずと讀みはじめた。まだ一時間目で、本を讀むのに指名されたと思つたらしい。滿場の割れるような爆笑の中に、彼は平然として讀み進んだという。

四

十四日の晩になると大人もこどもも、いそいそとして全くいそいそとしてとりごや詣りに家を出る。七こや詣りといつて、七つのとりごやを順次にお詣りするのである。

天氣豫報

【明日】北寄の風、朝夕は薄寒く日中は晴時々曇となるでせう【海上】おだやかな方ですが沖合はまだ『ウネリ』がありますから御注意下さい



「小名浜青果市場」

1日

なす	一三—二二圓
しようが	二〇〇圓
なた豆	九〇—一〇〇圓
丸大根	一〇—二三圓
梨	一一〇圓
ねぎ	五〇—八〇圓
卵一ケ	一三、一〇錢
玉ねぎ	五一—五五圓
大根葉	一貫目五圓
さつま	四六—六〇圓
きうり	二〇—三〇圓
長大根	五—二〇圓
きやべつ	五ヶ五〇〇匁

21日—22日 二日間

磐城座特選番組

★全世界に咆哮するイタリア映畫衝撃の感動巨篇！
鬼才オロンセリイニ、俊英ザムパと戰後イタリア映畫監督陣の三羽烏の一人
惑星ヴィットリオ・デ・シーカの傑作來る
★言葉なき感動の嵐！ 脈打つ藝術意欲！
恐るべき迫眞力と心温まる人間愛と郷愁を描いた香り高き最高の映畫
★一九四七年度アカデミィ特別賞作品藝術詩こそ、全日本人必見映畫としてこゝに上映する決定版

靴みがき

主演
パスクアーレ……フランコ・インテルレンギ
ジュセッペ……リナルド・スモルドーニ
ラッファエーレ……アニエツロ・メーレ
アルカンヂエリ……ブルーノ・オルテンツイ
少年刑務所長……エミリオ・チーゴリ

物語

ローマ、連合軍による解放直後。二人の靴みがきの少年パスクアーレとジュセッペは大の仲良しであり毎日舗道で道行くGIたちの靴をみがいていた。パスクアーレの兩親は戰爭の犠牲となり、彼は全くの孤兒となつたがジュセッペの家族は焼け出された人々に當てがわれた狹苦しい住宅に雜居していた。

或る日、ジュセッペの兄アキッレはパスクアーレとジュセッペに、ヤミ商賣をやつている女の處へ行つて軍用毛布二枚を賣つてくるように命じた。

翌日、街を歩いていた二人の少年は、昨日の女と一緒に彼らを探していた警官に捕えられた。そして少年感化院に連行された。

ジュセッペは、パスクアーレがジュセッペの身を慮つて一切を白狀したとは露しらずパスクアーレが兄アキッレを裏切つたものと誤解し、パスクアーレのことを怨むようになつた。かくして二人の友はお互に强く怨みを抱くようになつた。或る晩、慰問の映畫會が催された時ジュセッペは同獄房の少年と脱走を計つて成功した。

やがて或る小さな橋の上で、馬に乘つたジュセッペに會つた。パスクアーレは彼を馬から引きずり下ろして、革帶で烈しくジュセッペを打ち始めた。それを避けて逃げようとしたジュセッペは誤つて橋の下の岩の上に轉落し、遂に息絶えてしまつた。

その時始めてパスクアーレは、二人を結び付けていた愛情がいかに深いものであつたかを悟つた。パスクアーレを追つて來た看守たちは、夜の橋の下でジュセッペの死體にしがみついて「ジュセッペ！ ジュセッペ！」と絶望的に泣き叫ぶパスクアーレの姿を見出すのだつた。